

【近畿農政局長賞：単位収量の部】

(株)ばんば農産(滋賀県彦根市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
べこあおば	約26ha	684kg/10a	159kg/10a(525kg/10a)※ ※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 本人、従業員1名で経営する専業農家。米の卸売業も行っている。
- 飼料用米専作で、経営面積約26ha

【作付品目】

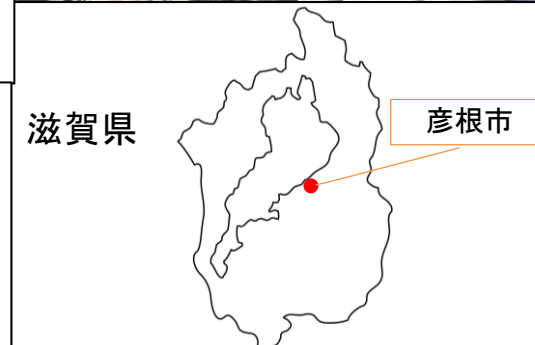
- ・べこあおば

【取組のきっかけ】

- 主食用米の価格低下を受け、収益の安定を図るため令和4年から飼料用米の栽培に取り組んだ。令和5年からは、飼料用米のみの作付けとなっている。
- 品種選定は、農林水産省のHP等で飼料用米の単収を参考に、耐倒伏性、耐肥性があり、地域で安定した種子供給のある「べこあおば」とした。

【取組概要】

- 農地の集積率を高めるため、農地中間管理機構を介して近辺のほ場を借入れている。当該地域の農地集積率は98%と非常に高くなっている。
- 元肥は、田植機による側条施肥でNPK14-14-14を50kg/10aを施用。追肥は安価な単肥(尿素)を流し込み施肥で4回を行うことで、コスト低減と省力化を図っている。
- BS資材(バイオスティミュラント)の表面散布により、栄養素の吸収促進や環境ストレス耐性の付与を図り、増収・品質向上に寄与するほか、肥料や農薬の削減にもつながり環境負荷低減にも貢献している。
- 省力化の取組として密苗移植技術や育苗箱施用による防除のほか作期分散を行っている。
- 収穫の早い一部ほ場(令和6年は4ha)において、農研機構の指導のもと、再生二期作に取り組み増収を図っている。
- 5年から農業アプリケーション「xarvio」を導入し、肥培管理のデジタル化、ドローンによる農薬散布(委託)など、スマート農業の活用により作業を効率化させている。
- 近江牛の生産が盛んな近隣市町の肥育農家と飼料メーカーを介した牛糞たい肥と稲わら交換の耕畜連携に取り組んでいる。



【近畿農政局長賞：地域の平均単収からの増収の部】 (株)森元農園 (滋賀県大津市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
北陸193号	約1.1ha	625kg/10a	128kg/10a(497kg/10a※) ※作況補正後の地域の平均単収

※作況補正後の地域の平均単収

【經營概況】

- 本人、従業員3名、アルバイト4名、季節雇用3名で経営する専業農家。
- 経営面積は34ha。飼料用米、主食用米、麦、大豆、子実用とうもろこし、ブロッコリーを栽培。

【作付品目】

- ・主食用米:きぬむすめ、コシヒカリ、
みずかがみ、キヌヒカリ、しがはぶたえもち滋賀羽二重糯

約19.0ha

- ・麦・大豆・子実用とうもろこし・ブロッコリー

約13.8ha

【取組のきっかけ】

- 近隣の養鶏（採卵）農家とつながりがあり、約20年前から「日本晴」、「吟おうみ」を飼料用米として提供。
- 近隣の生産者が極多収で耐倒伏性をもつ「北陸193号」で高い単収をあげていたことから、令和6年から主食用品種から多収性専用品種の「北陸193号」に転換した。

【取組概要】

- 基肥は田植機による側条施肥で一発肥料を施用。
- 追肥はコスト低減と単収向上を考慮し、尿素を中間追肥と穂肥の2回施用している。また、当該地域は砂地のため、肥料抜けが早いことから、葉色を確認しながら施肥のタイミングを図っている。
- 防除は、田植え前に育苗箱施用を行っているほか、自ら所有しているドローンを活用し省力化に取り組んでいる。
- 農業用機械の動力散布機と刈払機はバッテリー式を導入し、環境負荷低減に取り組んでいる。
- 収穫後は立毛乾燥を行い、養鶏農家へ粃の状態でフレコン出荷しており省力化を図っている。
- 養鶏農家と飼料用米生産農家で堆肥利活用組合を結成し、ペレット鶏ふんの開発に取り組んでいる。
- 地域の青年農業者倶楽部に入会し、獣害対策のため狩猟免許の取得に取り組んでいるほか、ブロッコリーの収穫で近隣の社会福祉施設との連携を図るなど農福連携にも取り組むなど地域の模範となっている。

